

報道関係者各位

「2月10日はフットケアの日」メディアセミナー開催のご案内
「日本人の足が危ない！知られざる我が国の糖尿病足病変の現状報告」
 ～Act Against Amputation 活動を全国へ～
日時:2017年1月26日(木) 18:00～20:00 (受付 17:30～) 軽食付き！
会場: トラストシティカンファレンス京橋(JR 東京駅八重洲南口より徒歩 4分)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、御礼申し上げます。

世界では、30秒に1本の足が、糖尿病が原因で切断されており、日本でも毎年1万人以上が大切断を行っていると言われております。日本の糖尿病治療は、足を定期的、継続的にチェックしている医療機関はまだ少なく、重症化してから患者が気づくケースが多くを占めます。しかも、足病を専門的に治療できる医師は限られ、適切な医療機関や診療科にたどり着けずに切断になってしまうことが多いのが現実です。下肢切断者の1年生存率は透析患者で52%。5年になると約80%以上が死亡、透析を受けていない人でも5年で約6割が死亡と厳しい状況。糖尿病有病者・予備群は2千万人もいるなかで、日本人の足を守るしくみは残念ながら確立されていません。現在のところ国民1人ひとりが情報を得て、自分で自分の足を守っていくしかないのです。

フットケアの日(2月10日)を前に、一般社団法人 Act Against Amputation(代表理事・大浦紀彦)はメディアセミナーを開催し、日本人の糖尿病足病変に対する深刻な現状、国民各々が自分の足をどう守っていく必要があるかについて解説し、情報の認知拡大を呼びかけます。また、下肢切断の危機を体験された有名人からのメッセージもご紹介予定です。

ご多忙中とは存じますが、ぜひご出席を賜りたくご案内いたします。なお、ご出席の際は別紙返信用紙に必要事項をご記入の上、1月25日(水)までにFAXかE-Mailにてご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬具

一般社団法人 Act Against Amputation 代表理事 大浦紀彦

【開催概要】

■日時: 2017年1月26日(木)18:00～20:00 (開場:17:30)

■会場: トラストシティカンファレンス・京橋
〒104-0031 東京都中央区京橋 2-1-3 京橋トラストタワー4階

■プログラム:

- 座長ご挨拶 日本下肢救済・足病学会理事長 大浦武彦
 基調講演「Act Against Amputation ～日本人の足が危ない！」
 一般社団法人 Act Against Amputation 代表理事 大浦紀彦
 (杏林大学形成外科教授)
 講演1「糖尿病患者さんの足はいま～糖尿病性足病変の現状」
 下北沢病院糖尿病センター長 富田益臣
 (一般社団法人 Act Against Amputation Faculty Member)
 講演2「日本人の足救済のために団結せよ～Unite for Limb salvage」
 福岡山王病院循環器センター長 横井宏佳
 (第8回日本下肢救済・足病学会学術集会会長)
 パネルディスカッション・質疑応答

■主催: 一般社団法人 Act Against Amputation

*演者の都合によりプログラム内容は予告なく変更される場合がございますのでご了承ください。

【糖尿病足病変は何が怖い？】

足病変は、ほんの些細なことから始まります。

外的要因による足の潰瘍の発症原因は、なんと約7割が「靴ずれ」。次に、やけど(19%)、外傷(7%)、感染症(3%)が続きます。

神経障害で知覚が鈍り、痛みやかゆみ、熱さや冷たさなどが感じなくなることも。

小さなキズで、自分では大したことはないと思っけていても、大事に至ることがあります。

靴ずれを放置して、そこから化膿、潰瘍が進み、血管も詰まり(閉塞性動脈硬化症)、あれよあれよという間に足の切断を余儀なくされた方も多くおられます。

靴ずれ発見から数日～2週間で壊疽まで進むことがあります。

ホットプレートで自分の足を焼いても気づかない・・・

ひとり暮らしの男性が、ホットプレートを使い焼き肉。お腹いっぱいになってその場でウトウト。ハッと目覚めたら、ホットプレートの上に足がのっかっていて、なんと自分の足が黒焦げに！足の感覚がにぶると、こんな事態でも気づかないことが実際あるのです。

知覚が鈍くなるだけでなく、感染しやすく、キズが治りにくなる

足の裏をよく見ていなくて、がびょうが足に刺さってもそのまま放置。1カ月後、なんか歩きにくいなど足の裏を見たら、がびょうが刺さったままの傷が化膿して大きな潰瘍に。潰瘍を切除したところ、足先が半分なくなってしまった。

長靴を脱いだら足が付いてこなかった・・・

農作業のために朝から晩まで長靴を履きっぱなし。足がふやけ水虫がひどくなり、傷から感染症が広がったようです。面倒くさくて何日も履きっぱなしにしていたら足が長靴に貼りつき脱げなくなつた。

【一般社団法人 Act Against Amputation 概要】

厚生労働省によると、糖尿病が強く疑われる人(HbA1c6.5%以上または「医療機関や健診で糖尿病と言われたことがある」と回答した人)は950万人、そのうち現在通院中の糖尿病患者数は316万6,000人と過去最高を記録しています。しかし糖尿病有病者のうち4割は継続的な治療を受けていない状況で、気づいた時には合併症が進んでいるケースが少なくありません。ご存知のように糖尿病の恐ろしさは合併症であり、3大合併症(腎症、網膜症、神経障害)の重症化によって人工透析、失明、下肢切断という末路を辿ります。特に糖尿病が原因とされる下肢切断に至っては年間1万人以上とされていますが、足病変の治療は多くの診療科が関わることから、累計人数を含め正確な実態は把握されていません。糖尿病があると単なる“靴ずれ”ですら壊疽のリスクとなり得ます。指1本であっても切断すれば日常生活は大変困難になり生命予後にも大きく影響するのです。そこで、関係診療科の垣根を超え、足病の診断・治療に関する知見を集積し、情報啓発を行うために当会が設立されました。

■発 足:

2014年2月10日

■目 的

「一生、じぶんの足で歩き続けること」の重要性と医学的意義を2つの領域の対象者に啓発を促し、下肢切断患者の減少に寄与する。

▶ 対象:一般生活者・患者（足病変リスクのある糖尿病・透析患者および前段階にある患者とその家族）

1. 足を健康的に保つことの重要性、足病変悪化による足切断の悲惨さに対する認知を広める
2. リスクのある人が足病に関する正しい知識を得、セルフチェックやケアを日常的に実践するよう訴求
3. エビデンスに基づいた情報を、実際に糖尿病の足を救済する最先端の専門医がわかりやすく解説

▶ 対象:医療従事者（糖尿病・透析、足病変の治療や指導に携わる医療従事者、保健指導従事者）

1. 関連領域に分散した情報をとりまとめ、足のケア・治療に関する情報の中心地を構築、共有する
2. 必要な患者に適切な治療を受けてもらえるよう、専門施設リストを作成、紹介する

■活動内容

1. ホームページを通じた知識の普及啓発
2. 必要な患者に適切な治療を受けてもらえるよう、専門施設リストの作成、公開
3. 国内外関係諸団体や活動支援者との連携
4. 一般生活者や医療従事者を対象とするセミナーの開催
5. アカデミアと企業の橋渡しをする事業の展開 産学協議会
6. AAAのメンバーによる医学的な患者調査
7. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業 など

■役員

Director Member

代表理事:杏林大学医学部形成外科教授 大浦紀彦

理事:東邦大学医療センター大橋病院循環器内科教授 中村正人

理事:奈良県立医科大学整形外科学教授 田中康仁

理事:旭川医科大学第一外科血管外科教授 東 信良

理事:福岡山王病院循環器センター長 横井宏佳

監事:東京医科大学皮膚科主任教授・病院長 坪井良治

監事:日本看護協会 看護研修学校 溝上祐子

Faculty Member/Clinical Reporter

駿河台日本大学心臓血管外科部長 折目由紀彦

東京医科大学病院心臓血管外科教授 西部俊哉

東京労災病院 循環器内科副部長/難治性創傷治療センター 宇都宮 誠

下北沢病院糖尿病センター長 富田益臣

東京西徳州会病院形成外科 木下幹雄

荻窪病院 整形外科・リハビリテーション 早稲田明生

下落合クリニック 透析(腎臓内科) 菊地 勘

国立国際医療研究センター病院皮膚科 四津里英

東京医科大学皮膚科 原田和俊

東名厚木病院形成外科 河内 司

日本フットケアサービス株式会社 大平吉夫

杏林大学病院皮膚・排泄ケア認定看護師 丹波光子

Advisory Member

日本下肢救済・足病学会理事長 大浦武彦

永寿総合病院糖尿病臨床研究センター長 渥美義仁

埼玉医科大学形成外科教授 市岡 滋

Support Member

アルケア株式会社

日本ライフライン株式会社

科研製薬株式会社

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

株式会社カネカメディックス

株式会社ミレニアメディカル

医療法人社団東仁会 吉祥寺あさひ病院

株式会社村田製作所

Cook Japan 株式会社

株式会社メディコン

ケーシーアイ株式会社

メンリッケヘルスケア株式会社

コンバテック ジャパン株式会社

レネロファーマ株式会社

医療法人社団青泉会 下北沢病院

ロート製薬株式会社

スミス・アンド・ネフュー株式会社

センチュリーメディカル株式会社

〈本件に関するお問い合わせ〉

一般社団法人 Act Against Amputation 事務局 担当/佐藤晴美 sato@soshinsha.biz

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-11 創新社内 Tel.03-5521-2881 Fax.03-5521-2883

大正富山医薬品株式会社

日本メトロニック株式会社

会場ご案内



トラストシティ カンファレンス・京橋

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-1-3 京橋トラストタワー4階

<http://www.tcc-kaigishitsu.com/tcc-k/access.html>

電車をご利用の場合

- ・JR 東京駅八重洲南口より徒歩 4分
- ・東京メトロ銀座線 京橋駅 7番出口より徒歩 1分

飛行機をご利用の場合

- ・羽田空港より都営浅草線快速にて宝町駅まで約 28分
- ・成田空港より成田エクスプレスにて東京駅まで約 56分

送り先 FAX 03-5521-2883

一般社団法人 Act Against Amputation 事務局 行

お手数ですが1月23日(月)までにFAXにてご返信いただけますと幸いです。

【出欠返信用紙】

メディアセミナー

「日本人の足が危ない！知られざる我が国の糖尿病足病変の現状報告」

～Act Against Amputation 活動を全国へ～

日時:2017年1月26日(木) 18:00～20:00 (受付 17:30～)

会場:トラストシティカンファレンス京橋

ご出席 ご欠席

資料のみ送付希望 (口欄に印をおつけください)

貴社名: _____

部署名: _____

ご芳名: _____ (計 _____ 名)

TEL: _____

FAX: _____

E-mail: _____

カメラ: あり (1. ムービー / 2. スチール) _____ なし

ご質問等あればご自由にお書き下さい。